

Book



トーキング・トゥ・ストレンジャーズ

「よく知らない人」について
私たちが知っておくべきこと

マルコム・グラッドウェル 著／

濱野大道 訳

光文社
1800円＋税／451ページ

Profile

Malcolm Gladwell

英国生まれ、カナダ育ち。トロント大学卒業。ノンフィクション作家、ジャーナリスト。「第1感」「天才」「逆転」「犬は何を見たのか」「急に売れ始めるにはワケがある」などベストセラー多数。

第一印象は当てにならない 思い込みが悲劇を招く

評者・スクウェアイフ代表 黒須豊

米 国では白人警官による黒人殺害への抗議活動が続いている。本書は、ミネアポリスで起きたような事件の真の原因を探ろうとする意欲作だ。

当事者らが異人種だと、人種問題に矮小化されがちだが、著者はそれだけではないと考える。見ず知らずの他人に対する第一印象に基づいた初動の失敗に問題があるのだ。

初めて会った人であっても、何を考えているか、どう感じているかは相手の表情や態度を見ればわかる。こうし

た思い込みが数々の悲劇を生み出しているというのが著者の見立てだ。

知り合い同士であれば悲劇は避けられたということ、豊富な事例で証明しようとする。事例は現代にとどまらず、ヒトラーとチェンバレンの交渉など、時に歴史をさかのぼる。

本書の中心的事例として紹介されているのは、黒人女性サンドラが、単に車のウィンドウを出さずに車線変更したという理由で白人の警官に逮捕され、3日後に獄中で自

殺を図り死亡した事件である。ノンフィクション作家である著者の描写は見事であり、読者は再現ドラマを見ているような気分になるだろう。

当初その警官は警告だけで済ますつもりだったが、協力的ではないサンドラの態度に不信感を募らせ、結果的に過剰とも思える逮捕に至った。

もしも、2人が友人同士であれば、このようなことにはならなかったであろう。ある意味当然の予想だが、では、どうすれば良かったのか。

相手を思い込みで判断するなどということ以外に、明確かつ学術的な解は提示されていない。その意味で物語が完結していない印象が残る。続編に期待したい。